

# まちづくりの仕掛け人に聞く「住之江区のまちづくり」

## 西原区長 × 藤原 明氏

当区まちづくりセンターのスーパーバイザーをしていただいている藤原氏に「住之江区のまちづくり」についてうかがいました。

### 藤原 明 | プロフィール・実績



大阪市出身。りそな総合研究所 リーナルビジネス部長。  
2007年8月米国国務省IVLP(国際ナショナル・ビジター・リーダーシップ・プログラム) 招聘。雑誌『AERA』では「日本を突破する100人」に選出される。  
天神橋筋商店街定期預金「百天満天百」をきっかけとした繁昌亭チャリティ寄席、オリジナル清酒醸造による商店街活性化、FM802アートプロジェクトdigeoutとの「RESONART」

キャッシュカード、魔法瓶メーカーとの「マイすいとう」「マイボトル」など多数の協働企画を展開。企業・地域における活性化の取り組みは500を超え、その有機的なネットワークが広がる「わらしべ長者」的展開は各所で反響を呼んでいる。

2014年4月より住之江区まちづくりセンタースーパーバイザーとして、地域活動協議会の立ちあげや、まちづくりを支援。

### ～まちづくりって実は面白い～

**西原** 一般の区民の方にとっては「まちづくり」ってなかなかピンとこないかもしれませんが、どう思われますか？

**藤原** そうですね。まちづくりだとか地域課題とかいうと、自分とは遠いように感じるかもしれませんが、試しに「自分の生活課題」と考えてみていただくと実はすごく面白いんじゃないでしょうか？

**西原** 面白いって感じてもらうって非常に重要なポイントですね。

**藤原** ええ。自分が生活する中で、「こんなこと困ってるな」とか「こういうものがあれば助かるんだけど」ってあるでしょう？それが「自分の生活課題」なんですね。「じゃあ、その課題を地域と一緒に考えて、みんなで解決していきましょう」というのがまちづくりなんです。



**西原** なるほど身近に感じますね。

ところで、住之江区まちづくりセンター(10ページ参照)のスーパーバイザーをしていただいている藤原さんご自身についてお話をうかがっていいでしょうか？プロフィールを拝見すると素晴らしいご活躍ですが、銀行員でありながらなぜまちづくりを？

**藤原** まちづくりに関しても、いろんな方々が関わってアクションがあれば、それでまたいろんなマーケットができますが、銀行はその最後の金のところでしょうか。大学時代、商業施設とかのまちづくりに関連するようなゼミにいたというのがベースにありましたので、銀行も最初のところから関わっちゃう新しいスタイルにできないかなとずっと思っていました。それが、りそなショックをきっかけに新しい銀行像を創ろう！ってなったときに、大学時代も含めたこれまでの経験も銀行という存在みたいなのも全部活用できるし、これはもうやるぞと。かれこれ15年になりますね。

**西原** 住之江区でも、藤原さんのご助言のもと、「地域の未来像を語り合う懇談会」や「企業・NPO・学校・地域交流会」を開催して、いろいろな取り組みが生まれています。これは藤原さんのお考えになった手法でやっていただいているんですよね。

**藤原** 最初5年くらいは自分でプロジェクトをプロデュースしていたんですけど、それだけだと広がらないし、続かないので、今度はみんなができる仕組みにせよと銀行内で言われたんですよ(笑)。それで試行錯誤して今の形になりました。

**西原** 長い間の思いや経験が形になっているんですね。実際にはどんな手法なんでしょうか？

**藤原** 地域における本質的課題「やるべきこと」を明らかにして、企業・大学・NPO・市民活動団体などの「強み」とマッチングさせ、地域における新しい共有価値を創造していこうというものです。これは、全国各地で同じやり方でやっています。必ず地域のお悩みがあって、そこに企業やNPOなどが一緒になって解決できることがどこの地域でも見えてきています。こういうのがもっともっと広まったら、お互い楽やのになあとと思います。

### ～大きなイノベーションへ。広がる可能性～

**西原** 僕も違う人と違う人とがこうつながった瞬間に、何か新たなものができあがるっていうのは非常に面白いし、実はそういうことこそが世の中を変えてきているんじゃないかなと思っています。

**藤原** おっしゃるとおりですね。だから、こうした地域活動がイノベーション(刷新)の素になっていくような可能性をすごく感じますよね。住之江区でやっている「企業・NPO・学校・地域交流会」でも、皆さんが混じりあってなんかひらめく瞬間、化学反応が起きる瞬間みたいなものがあるんですよ。これは大阪市の地域活動協議会設立とともにいくつかの区から始まったものなのですが、これが大阪のまち全体に、もっともっと広がっていけばなあという感じですね。地域活動協議会ができてからの5年間はとても面白いです。



### ～よってたかって協働するまちづくりを～

**西原** 最初は区役所にさそわれて…って感じで交流会にこられている方が、いざ始まってみるとすごく熱心に地域の課題を話し合われているのが、本当にありがたいし、わくわくします(笑)。

実は、「まちづくり」というとそれ行政の仕事ちゃうかっていう反応が多いんです。でも、それは違いますよという話をその度にするんです。

**藤原** そうなんです。だから自分の生活の課題ってとらえていただいて、それが他の多くの方にとっても課題だったりする、そこを変えるんだ、みたいに。

自分のことにしていただく。私はいつも地域の方々だけで解決しないでいいですよ、とうるさいぐらいに言ってます(笑)。いろんな方々を巻き込んでやらないと解決なんてできません。自分たちが本当に困っていることを正確に伝えて、そこを起点に企業などを巻き込んで、そこから何か新しいものが生まれるんじゃないかと。

**西原** 地域でまちづくりをしている方々は、年齢とか、性別などが、比較的固定されていて、少し流動性が足りない面があると思うんです。そこに、企業やNPOの若手が入ってきてくれたら発想も変わってくる。たとえば、地域に対して、企業がもっとこっちの方をやったほうがいいんじゃないかと提案して下さったりするか。そうしたことを期待したいんですよ。

**藤原** そうですね。地域の方と一緒に考えていただく。会話を繰り返すことで、だんだん整理されていくところがあるので。特に、企業はニーズをつかむのが商売ですから。地域の皆さんのお話を聞いて、そこから課題を引き出していくというような話し合いができればもっと進化して面白いと思うんですよ。

### ～まちづくり。住之江区は面白い！～

**西原** 今まで住之江区のまちづくりに関わってこられて、いかがでしょう。

**藤原** いやあ、住之江区は本当に面白いです！

**西原** ありがとうございます(笑)。どの辺りが面白いと？

**藤原** 住之江区の「企業・NPO・学校・地域交流会」ですけど、あれだけ企業やNPOが集まる規模はなかなかないですね。毎回、あれだけ集まるネットワークを作られたのはすごい。

**西原** 住之江区の企業やNPOは、これをしたいなという何か強い思いを持ってくださってるんでしょうね。

**藤原** あるんでしょうね。たぶんですが、つながってやってきた自負のようなものが。

**西原** ええ。そして地域も柔軟に受け入れてくださっている。本当にありがたいことで、ぜひさらに進化させていきたいですね。

